

# 平成26年度小松島市事務事業評価シート

## ■事業の位置づけ（基本事項）

				<b>整理番号</b>	4 - 2 - 2
<b>事務事業名</b>	市道側溝清掃事業			<b>担当課係</b>	都市整備課
<b>総合計画上の位置付け</b>	<b>大項目</b>	2. 「安心」のまちづくり		<b>記入担当者</b>	
	<b>中項目</b>	③生活環境への阻害要因の減少		<b>内線等</b>	
	<b>小項目</b>	2. 豊かな自然を保護し共生するまちづくり		<b>E-mail</b>	
<b>事業の実施主体</b>	市（委託・補助事業含む）			<b>事業区分</b>	経常事業
<b>事業予算費目</b>	<b>款</b>	8	土木費	<b>項</b>	3 道路橋梁費
	<b>目</b>	2	道路橋梁維持費	<b>事業</b>	4 市道側溝清掃事業
<b>開始年度</b>		<b>年度</b>	根拠法令・要綱等	道路法第24条	

## ■事務事業の概要（実施内容）

<b>事業の対象</b>	（誰の、何のために事業を実施するのか） 市道等の利用者及び周辺住民
<b>事業の目的</b> （意図）	（事業実施によってどういう状態にしたいのか） 市道側溝のうち半分程度の深さまで土砂、汚泥等が堆積している箇所の清掃を行うことにより排水機能を確保し、通行者や地域住民の利便性・快適性を図る。
<b>事業の内容</b> （内容・手法等）	（どういった仕事の内容で、どのような手法・手順で実施しているか） まずは市街化区域における市道側溝について堆積の状況を調査し、特に道路沿線住民から要望・連絡があった箇所については優先的に調査を進める。そのうえで、半分程度の深さまで堆積している側溝の清掃を業者に委託することで実施する。
<b>事業の背景</b> （経緯等）	（事業開始の背景やこれまでの経緯） 周辺住民から側溝に土砂等が堆積し排水を阻害しているので清掃してほしいといった要望があり、市道側溝については道路の維持管理の観点から道路管理担当課である都市整備課が中心となって行う必要があった。

## ■事務事業の業績・推移（目標・実績）

成果指標	指標名		指標の説明					指標化できない成果
	単位		H25	H26	H27	H28	将来目標 (年度：平成)	
		側溝清掃延長						
m	目標			5,000	5,000	5,000		
	実績			4,846				
	達成度			96.9%				

  

活動実績・参考となる指標	指標名	単位		H25	H26	H27	H28	指標の説明
				計画				
			実績					
			計画					
			実績					
			計画					
			実績					

## ■事務事業に係るコストの業績（目標・実績）

（単位：円）

		25年度決算	26年度決算	27年度決算	26年度予算	
全体コスト（円）	A	直接事業費				
	財源内訳	国県支出金	0	14,094,000	0	15,680,000
		地方債				
		利用者負担				
		一般財源		14,094,000		
	B	人件費 ①×②				
		職員平均人件費①	0	1,539,518	0	
	従事した割合②/人		7,697,590			
			0.20			
	A + B	0	15,633,518	0		
単位コスト	活動指標の説明		側溝清掃延長 4,846m		備考	
	活動指標1 単位当たりコスト				平成25年4月1日現在 人口40,733人	
	市民一人あたりのコスト		0	3226	388	平成26年4月1日現在 人口40,333人

■事業を取り巻く環境

国・県・他団体の動向や環境変化と今後の予測	(社会状況、法改正、規制緩和、周辺の状況等や今後の予測) 同じ路線の側溝でも場所によって堆積の度合いが違っており、どこまで清掃を実施すればよいかの見極めが難しい。また、今後は市街化調整区域の市道側溝についても順次調査を進める必要があり、より計画的に清掃を実施しなければならない。
事業に対する住民の意見	(意識調査・議会質疑等、事業に対する期待・要望・苦情など) 生活道路でもある市道の側溝清掃に関しては市民からの要望も多く、安全・安心で快適に生活できる環境の提供が望まれる。

■項目別評価・今後の課題

評価項目	評価結果 (該当にチェック)	判断理由・評価コメント (具体的に記入すること)
必要性 (市民ニーズ)	<input type="radio"/> ① 必要性が高い <input type="radio"/> ② どちらかといえば必要性がある <input type="radio"/> ③ 必要性が低い <input type="radio"/> ④ 必要性がない	市民からの市道側溝清掃の要望は恒常的に多数有り、本事業は市民の暮らしに密着した事業であると判断される。
妥当性 (市で行わなければならないか)	<input type="radio"/> ① 市が行わないといけない <input type="radio"/> ② どちらかといえば市で実施 <input type="radio"/> ③ 必然性が低い <input type="radio"/> ④ 必然性がない	認定市道の側溝については、管理者である市が維持・管理を実施しなければならない。
効率性 (事業の手法は効率よいが、コスト削減の余地はないか)	<input type="radio"/> ① 効率的である <input type="radio"/> ② どちらかといえば効率的 <input type="radio"/> ③ どちらかといえば非効率的 <input type="radio"/> ④ 非効率的	直営で行うための機材等が無いため、業者に業務委託することで清掃を実施している。
緊急性 (他事業に優先し、実施する必要があるか)	<input type="radio"/> ① 緊急性が高い <input type="radio"/> ② 比較的緊急性がある <input type="radio"/> ③ 緊急性が低い <input type="radio"/> ④ 緊急性はない	側溝清掃については、大雨時に側溝から排水が道路にあふれるのを防ぐためという面があり、比較的緊急性が高い。
成果 (目的の達成状況)	<input type="radio"/> ① 成果が上がっている <input type="radio"/> ② どちらかといえば上がっている <input type="radio"/> ③ どちらかといえば上がっていない <input type="radio"/> ④ 成果は上がっていない	側溝清掃を実施した箇所については、堆積土砂による排水の阻害が解消されることから、一定の成果は得られている。
今後の課題	認定市道の側溝については全てについて調査を完了させるのに時間がかかることが予想される。また、市民からの要望が多数に上るため、すべての要望に対応するのに時間がかかる。	

■一次評価 (評価点は目安とし、総合的な評価をすること)

評 価	2	1 拡 充 す る	80 点 以上	評価点による判定 評価点 72 2	判断に至った理由 市道側溝の土砂の堆積状況等を勘案し、実施する箇所について調整を図りながら計画的な清掃を進めることが必要である。
		2 現状のまま継続する	60 ~ 79 点		
		3 改善・効率化し継続	50 ~ 59 点		
		4 見直しの上縮小する	40 ~ 49 点		
		5 終期設定し終了	30 ~ 39 点		
		6 休 止	20 ~ 29 点		
		7 廃 止	19 点 以下		

■改善・効率化・見直しの方向性 ※一次評価の判定が3・4の時は、必ず記入すること。

【具体的な改善等取組内容 (方向性・対象・手段等について記述)】
----------------------------------

■二次評価 (所管担当の一次評価を、総合評価し判定すること)

評 価	2	1 拡 充 す る	判定説明 計画的に点検を実施し、側溝清掃を行うことにより道路の排水性や安全性が確保され、住民の生活環境改善が図られることから、引き続き事業を継続することが妥当である。
		2 現状のまま継続する	
		3 改善・効率化し継続	
		4 見直しの上縮小する	
		5 終期設定し終了	
		6 休 止	
		7 廃 止	